

長崎とビキニ核実験二重に被ばくした横山幸吉さん（ビキニ損失補償訴訟原告）

赤旗

2022年7月18日（月曜日）

「戦争はだめ 核兵器なくして」



「日本が食つかわれるかの時だ。進学など国賊だ。天皇陛下のため、兵隊さんのため長崎の三菱兵器製作所に行

横山さんが担任教諭に進路を相談したときのことです。7人兄妹の6番目として、1929年（昭和4年）9月、土佐清水で生まれた横山さんは、中学卒業後、三菱重工長崎兵器製作所に半ば強制的に働くことになりました。そこには、日本による中国侵略が泥沼化し、米国にミッドウェー海戦で負け敗戦色が年々強まるなか、学徒出陣が始まり、工場などへの学徒勤労動員など総動員体制ができあがっていました。

「みんな苦勞していた。私らは寮から弁当を持って工場に通った。中身はコメじゃな



「戦争はだめだ。放射能を出す核兵器は、みんなの力でなくしてほしい」。高知・土佐清水港近くの自宅で一人ぐらしをする元マグロ漁船員の横山幸吉さん（92）は、米国による長崎への原爆投下とビキニ核実験で二重に被ばくしました。実質審議が始まったビキニ損失補償訴訟の原告として、国がやる戦争の愚かさ、被ばく者に冷たい日米両政府への怒りを語りました。（阿部浩士）

長崎とビキニ核実験 二重に被ばく

ビキニ損失補償訴訟の原告 横山幸吉さん

「昼飯前で、トンネル工場の電気が突然消えた。2、3歩歩いたら吹き飛ばされた。上からなにかバラバラと落ちてきて、とっさに旋盤の下に隠れた」

トンネル入り口は火の海でした。トンネル奥から山の手

「みんな苦勞していた。私らは寮から弁当を持って工場に通った。中身はコメじゃな

（5面に続く）

二つの訴訟

「ビキニ事件にかんし、横裁」を起こしています。援することを決めていま
山さんら元漁船員は「ビキニ 船員訴訟は、今月26日に す。代表委員の田中熙巳さ
二損失補償訴訟」(高知地 第一回口頭弁論が開かれま んは「具体的な支援とし
裁」と、船員保険による勞 す。日本原水爆被害者団体 て、当面、口頭弁論の傍聴
災の適用を求める「ビキニ 協議会(日本被団協)は、 席を被爆者で満席にした
被ばく船員訴訟」(東京地 6月の総会で船員訴訟を支 い」と話します。

最良の漁場破壊

横山さんが乗ったど も約1000隻の日本
の漁船もマグロが多く 漁船が被害に遭う海域
とれる最良の漁場だっ にいたことが、当時の
たマーシャル海域をめ 内閣公文書で明らかに
ざしました。アメリカ になっていきます。日米両
はその海域を勝手に核 政府は、漁港での放射
実験場にし、戦後直後 能検査を54年末で打ち
の46年から58年かけ 切り、人的被害は第5
て67回も核実験を強行 福竜丸漁船員に限る55
しました。 年1月の「政治決着」

当時、漁船員は航海 で事件を封印させまし
中、売り物にならない た。日本政府は54年以
漁獲物を食べ、海水で 降もアメリカの核実験
シャワーを浴びるのが を容認・支持してきま
当たり前でした。それ した。
らは核実験による放射 横山さんが乗った漁
能で汚染されており、 船で、放射能検査をう
多くの漁船員が内部被 け、90シのマグロを捨
ばくにさらされたので てるよう命じられたの

は、54年の第11富佐丸
だけでした。

仲間の弔い合戦

横山さんは、原告の
1人となり、日米「政
治決着」によってアメ

リカに損害賠償を求め
る権利を奪われたこと
に対し、国に損失補償
を求める訴訟を高知地
裁に起こしています。

高知地裁は6月17
日、原告の高齢、体調
不良などを考慮して土
佐清水市内で証拠保全
のための証人尋問(非
公開)をおこない、横
山さんや谷脇壽和さん
ら4人が証言に立ちま
した。

「漁船員が被ばくし
たことを黙っておいた
国が悪いよ。政治家が
一番よくない。室戸で
も土佐清水でも多くの
仲間が40代、50代で死
んだ。水爆実験のせい
だと思っ。訴訟はその
弔い合戦や。核実験で
被害をうけた私らはほ
ったらかしや。孫が社
会人になるまでがんば
らないといけない」

横山さんらをサポー
トする太平洋核被災支
援センターの山下正寿
さんは、「発効した核
兵器禁止条約には被爆
者と同時に核実験被害
者の救済項目がありま
す。グノーモア被爆者
とともにグノーモア核
実験被害者」の視点か
らも、被害者の救済と
日本の条約参加を求め
る運動の共同を全国で
広げたい」と話します。

1面のつづき

1945年8月9

日、長崎で被爆した横山幸吉さんは幸いケガもなく、憲兵みたいなおとなから「救護を手伝え」といわれまして。4人1組で死んでいるのか生きているのかわからない人たちが軍の病院に運ぶ作業をしました。

反戦で「万歳」と

食べるものもなく、故郷に帰りたいと思って、その作業から逃げ出した横山さん。長崎駅で駅員から「はんこを押したこの紙一枚あれば、日本中どこへでも行ける」といわれ、汽車に乗りました。広島駅で見た市内はあたり一面焼け野原で、タンクから水がジャンジ

長崎・ビキニ二重被ばく

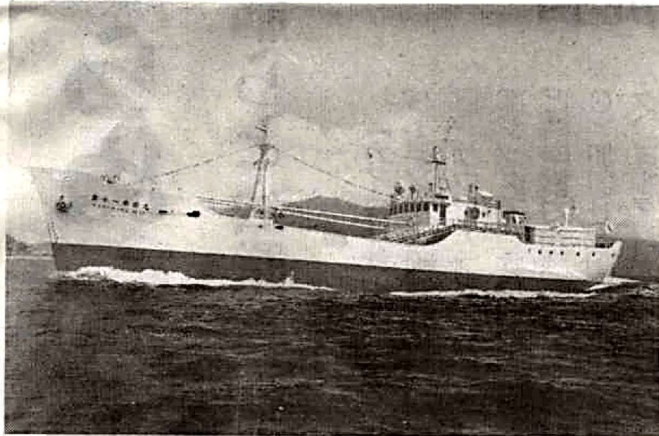
ノーモア核実験被害者 共同の力で日本の核禁条約参加を

ヤン噴き出してしました。岡山県宇野港から四

国行き連絡船に運よく乗れて、歩いたりトラックの荷台に乗せてもらったりして、故郷をめざしました。宿毛あたりで人が騒いでいました。8月15日で戦争に負けた知らせでした。横山さんは、思わず負けてよかったと万歳しました。

水だけで飢えをしのぎ、やっと家にたどり着くと、お母さんが生きていたのかと喜んでくれました。

髪がバラバラと抜けたとき、姉が「長崎の



原爆のせいかね」といわれたことを今も覚えていいます。

17歳でマグロ船

被爆し痩せこけた体

が回復した横山さんが、「重労働だ」というマグロ船の漁船員になったのは、17歳のときでした。父親が事業に失敗し、一家を支えた

いという思いからでした。

第2良栄丸や第11孝栄丸などいくつかのマグロ船に乗りました。「マグロ船は地獄やけん。重労働だ。朝4

時ごろ起きて、500枚の漁具を海に放り投げる。3時間はかかる。マグロがえさに食いつくまでの2時間ぐらい流して、機械で巻

きあげるけど、始末は人間がやる。港を出て帰るまでの3カ月は海の労働で、手の皮が木の皮のように硬くなる」



⑤マグロ漁船員だった上原久さん(左)は、良きおしゃべり仲間です。高知県土佐清水市、12日
④横山さんが乗ったマグロ船・第11孝栄丸(本人提供)